トゥーランドットの接吻について

情報工学科2年　　A. M.

後期演習の中で私にとって一番印象深かったのが「トゥーランドット姫」で、とりわけ「接吻による気持ちの変化」が印象的だった。それを考えてみる。

トゥーランドット姫というものは「謎かけ姫物語」という、アラビアンナイトを始めとして各地の説話として一般に流布している。オペラにおけるトゥーランドット姫は恋や愛といった感情よりも男性への復讐心が強くプライドが高い。そんな彼女が主人公をはねつけ続けた上で、接吻によって「冷たい心」がとけ、彼を愛するようになる。この愛を引き出したものがただの「接吻」だとするのは単純であるので、何故この「接吻」で姫が人を愛するようになるのか、ということを考察したい。

前提として、トゥーランドット姫はプライドが非常に（異常に）高く、男性に媚びたような態度は取らない上に歩み寄ろうとするような気はないと言っても良い。それは前述した男性全般への復讐心とプライドが相まって、○男性からしてみれば最早恋愛相手としては難攻不落の鉄壁である。ここで考えたい事はそんな姫の心が最終的には「接吻」で落とされるのは何故かということだ。「トゥーランドット姫」を見てみると、「接吻」に「特定の条件」や「プロセス」が加わることによって、「気持ちの変化」を導き出したのではないか、ということが考えられる。

まず、最初にあった効果的なプロセスとして挙げられるのが「謎かけ」での敗北である。トゥーランドット姫は「謎かけ」によって主人公をはねのけようとするが、ことごとく打破されてしまう。ここで、○少なからず姫の自信は傷つき、更には姫に向かって「謎」を持ちかけてくる彼に対して、対等に渡り合ってくる相手と“認めた”のではないだろうか？

次に注目するのが主人公の「一途さ」である。謎かけだけでは姫に人を愛させることはできなかっただろう。何故なら、男性への復讐心を持っているからである。トゥーランドット姫はロウ・リン姫に強い関心を持っており、トゥーランドット姫はロウ・リン姫が男性に騙され絶望のうちに死んだと考えている。すなわち、この復讐心を解きほぐさなくては、姫は男性を信頼し愛することが出来ないだろう。普通の男性ならば姫の人をはねのける性格にうんざりするところを主人公は積極的にアプローチしていく。

そして最後にあったのが「熱い接吻」である。これは相手に対する情熱が現れている。「熱い接吻」は情熱や相手に対する「一途さ」、「愛情」が読み取れる。男性に対する嫌悪感とも取れる復讐心に対しては、このような「愛情」や「一途さ」は彼女の男性に対する不信感を和らげる効果があったのではないかと考えられる。これから相手を騙そうとしている相手がこのような一途さや愛情を注いでくれるとは思えなかったのではないだろうか。
彼女の冷たい心は次第に和らいで行き、愛を知ることとなる。

接吻には科学的にも「リラックス効果」や「愛情を高める」効果があるようだ。「The Science of Kissing 」を記したシェリル・カシンバーム氏の著書（『人はなぜキスをするのか』）によると情熱的な接吻は、熱望や欲求を生じた際に出るドーパミンという物質や、相手に対する欲求を高める効果のあるセロトニンなど、神経伝達物質の濃度を高めていく効

果があるという。更に両者の愛情を引き起こす子宮伸縮ホルモンも急激に上昇するなど、恋愛に対しての効果はあると言えそうだ。

これらのことから、「接吻による気持ちの変化」というのは“ある”と言う事が出来るだろう。「接吻による気持ちの変化」には当然だが、こういった相手に対する理解や信用、一途で情熱的な態度が必要だろう。トゥーランドット姫のような人物でも「接吻によって気持ちが変化する」ということが考えられる。